

◆ Ruby の広がり ◆

8 Rails Girls とその背景



鳥井 雪 ((株)万葉)

本稿では、現在世界的なムーブメントとなっている、女性を対象としたプログラミングワークショップ「Rails Girls」の活動を紹介します。Rails Girls は、Ruby 製 Web アプリケーションフレームワークである Ruby on Rails を利用して、IT 技術者の裾野を広げる役割を果たしています。

Rails Girls とはなにか

2010 年にフィンランドで始まった、Rails を使って女性に技術の門戸を開こうというワークショップです。年齢制限はなく、主にプログラミング初心者の女性を対象としています。内容は、2 日間のワークショップの中でコーチが参加者を教え、Ruby on Rails で Web アプリを作成してクラウド上にアップするというものです。ワークショップのチュートリアルは Web 上にすべて公開され、有志によって Github 上でメンテナンスされ続けています。

なぜ“Rails” Girls なのか

Rails Girls の趣旨は、“女性に、技術を理解し、自分のアイデアを実現するためのツールとコミュニティを与えること”であり、Rails や Ruby の普及が目的ではありません。ではなぜ Rails が選ばれたのでしょうか。複数の要因があると思いますが、その中でも大きいのは、Rails の、「短時間で、目に見える形で成果を作り上げることのできる機能」です。

Rails Girls のワークショップは、初日、金曜の終業後を想定した 2 時間程度と、2 日目の全日を使って行われます。もちろんこの短時間で、初心者が実

用レベルの技術を習得するのは難しいでしょう。ですから、このワークショップでは「技術が自分でも扱えるものでもあると知ること」と「アイデアを形にする達成感」が目的になります。

そのために

- 普段の生活で馴染みのある Web アプリケーションを形にする
- 2, 3 コマンドで一機能を一気に作ることができる
- HTML からデータベースまで広範囲な技術に少しずつ触れる機会がある

という特徴を備えた Rails は格好のツールと言えます。

また、一度きりの体験で終わらせることなく、継続的な学習の契機とするために、既存の豊かな Ruby・Rails 周辺のコミュニティが助けになるという点も重要です。

Rails Girls の現在

Rails Girls は、現在では世界中の各都市で開催されています。2015 年の実績だけでも、この 7 月末の段階でのべ 48 都市で開催され、その地域は日本、中国、イスラエル、アメリカ、ニュージーランド、ポーランドなど、広範囲にわたっています^{☆1}。

日本では 2012 年東京第 1 回を皮切りに、2014 年までに 7 都市、全 12 回開催され、2015 年もすでに塩尻、京都、大阪、福岡での開催が終了、9 月に神戸、東京の開催を予定しています (図-1)。2014 年までに総参加者のべ 230 人に対し、運営側のコーチ・スタッフ数のべ 230 人 (いずれも概算)。開

☆1 <http://railsgirls.com/events>



図-1 Rails Girls 開催の様子

催はすべて非営利のボランティアベースで行われています。

Rails Girls の開催には、多数の技術者のボランティアでの協力が必要となります。なぜなら、参加者はワークショップ中に、Rails の環境構築から Web アプリケーション制作、Git の使用、クラウド上へのデプロイまでを経験する中で、現在自分が作業している内容の意味を（大づかみにでも）把握し、興味を深めることを期待されています。そのためには、経験ある技術者が、コーチとして適切できめ細やかなサポートをする必要があるからです。日本の開催では、参加者を 4,5 人班に分け、各班に 2 名のコーチが配置される体制が一般的です。一度に 10 数名の Rails 技術者を集めるためには、開催都市の Rails コミュニティの協力が不可欠です。

また、Rails Girls 開催には、電源と Wi-Fi のある会場の提供や、飲み物やお菓子、アフターパーティ等の資金協力を、企業に求めることとなります（アフターパーティは、参加者とコーチの交流を促し、参加者に地域技術コミュニティへの道を作る契機として活用されます）。

Rails Girls が求められる背景

地域の技術コミュニティ・企業が、このようなコストをかけて Rails Girls へ 協力を提供することで、どのような期待をし、メリットを求めているのか、

Rails Girls が求められる背景とはどんなものなのか、筆者がかかわってきた範囲で、日本の状況について以下のように考えます。

現在、日本に IT 技術者は不足していると言われています。

体感としても、少なくとも Ruby 技術者（特に Rails 技術者）の人材確保に、周囲のどの開発会社も頭を悩ませている話をよく聞きます。

そしてもう 1 つ、IT 技術者の男女比の偏りがあります。日本のソフトウェア業雇用者男女比は、平成 22 年国勢調査において男性：女性およそ 8：2 と、大きな偏りを見せています。

以上の状況をふまえ、次のような背景が、Rails Girls が大きな支援を集める理由となっていると考えます。

- 必要な技術者確保のためには、男女ともに技術を学ぶ機会の拡充が必要なこと
- 女性の方が歴史的に技術に触れる機会が制限されており、そのためより多くの機会の補填が望まれること
- 技術に触れる機会が比較的あった男性はすでに向き／不向きあるいは嗜好の選別がある程度行われており、むしろ（選別の機会さえなかった）女性にポテンシャルが期待されること
- 男女のバランスが著しく偏った状況は、集団の多様性を欠き、構成員にとって居心地の悪い硬直した状況に陥りやすいため、是正が望まれること

また、企業としては、技術者コミュニティが関心を寄せる活動を支援することで、多様性に意識の高い自社をコミュニティに対してアピールし、採用戦略に繋げることができるメリットがあります（図-2）。

もちろん、それらすべての条件があっても、各都市で開催を希望する人間が手を挙げ、そして女性の参加者が集まらなければ、Rails Girls は成立しません。まず何よりも、技術を学びたいという女性側の意志と需要があり、コミュニティと企業がそれに呼応していると言えるでしょう。

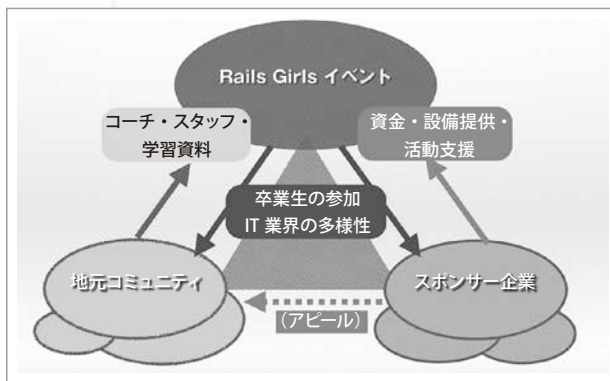


図-2 Rails Girls イベントを支える構成

Rails Girls の日本での成果

2012年から3年間、日本での Rails Girls を契機とする成果として主に以下のものがあります。

- 参加者の地域コミュニティへの参入/コミュニティの活性化
- 初心者からの女性技術者の輩出

Rails Girls 参加者は一度きりのワークショップでは終わらず、その後の継続的な学習への意欲を持っています。その受け皿となるために、各都市で継続的なフォローアップの勉強会が開かれ、参加者が地域技術者コミュニティとのつながりを深める体制となっています。

受け入れるコミュニティ側も、コーチや指導の経験を通して、コミュニティ・技術の新規参入者の視点を意識する効果があります。「説明をすることで自分の理解がより明確になった」というのは、コーチ後の感想としてよく聞かれるものです。また、Rails Girls のチュートリアルを整備を通じて、Rails

Girls 参加者以外の、Rails 初心者の学習開始の道がメンテナンスされ続けています。

さらに特筆すべきは、Rails Girls 参加者が発端となり、中心的にかかわる、いままでにはないタイプの自発的な勉強会の開催です。現在第9回を数え、毎回根本的なところから RESTful の考え方を検討する、一般の技術者にも大変有用な勉強会があります。また、「初心者だけで Rails のチュートリアルを進めていこう」というコミュニティも、既存の勉強会を敷居が高いと感じる層を取り込み、Rails コミュニティの幅を広げる役割を果たしています。もちろんどちらの勉強会も、すでに性別による参加制限はありません。

そしてそのようなコミュニティへの参加・学習を経て、Rails Girls 参加者が技術者として雇用されています。Ruby の技術によって支えられた Rails Girls が、女性に技術の世界への新しい扉を開き、IT 業界の豊かさへと繋がる入り口の役割を果たしたと言えるでしょう。

これからも、各地で開催されるであろう Rails Girls が、IT 業界全体への寄与へと繋がることを期待しています。

(2015年8月7日受付)

鳥井 雪 y.torii@everyleaf.com

(株)万葉社員。Rails によるアプリケーション開発に従事。2013年
第2回 Rails Girls 東京を開催、全国の RG 開催を支援する Rails Girls
in JP のメンバを務める。